

## 臨床の質を上げるための生成 AI 活用法

### 学習目標

- ・ 臨床上の疑問を一般化・構造化し、個人情報を含まない形で生成 AI に入力する方法を説明できる。
- ・ 3 省 2 ガイドラインの概要を理解し、医療における生成 AI 利用時の個人情報保護の原則を遵守できる。
- ・ EBM の 5 つのステップに沿って、生成 AI を活用した情報検索および文献評価の方法を実践できる。
- ・ ハルシネーション・シカファンシーなど生成 AI 利用時のリスクと対策を説明できる。

### 課題提示

以下の動画を御覧ください。

臨床の質を上げる生成 AI 使いこなし最新アップデート：

[https://www.youtube.com/watch?v=OGqfN\\_W7EOY](https://www.youtube.com/watch?v=OGqfN_W7EOY)

### 課題

1. 動画を視聴し、最も印象に残った内容とその理由を 200～400 字程度で記載してください。
2. 以下の手順に従って、臨床的疑問を生成 AI で調べたレポートを作成してください（様式自由、800 字以上）。

#### 【手順】

##### Step 1：臨床的疑問を一つ設定してください。

実習や学習の中で感じた疑問、あるいは以下のテーマ例から選んでも構いません。

##### Step 2：設定した疑問を構造化（PICO 形式等）した上で、個人情報を含まない形に一般化してください。

（例）「〇〇市の A さん 82 歳女性、12 剤服用中で日中の眠気あり」  
→ 「多剤併用中の高齢者に対して、A 薬の減薬・中止は処方維持と比較して、

ふらつき・転倒を減少させるか」

**Step 3 : 一般化した疑問を生成 AI に入力し、調べてください。**

動画中で紹介している ChatGPT の GPTs や Gemini の Gems を使用しても構いません。

可能であれば、システマティックレビューやメタアナリシスに基づいた検索を試みてください。

**Step 4 : 生成 AI が出力したレポートをもとに、以下の点を確認・記載してください。**

- a. 提示された文献が実在するかどうかを確認し、その結果を記載すること。
- b. 使用した生成 AI サービス名（例：ChatGPT 無料版、Gemini 思考モード、Open Evidence 等）を記載すること。
- c. 参照した文献を 1 つ以上必ず記載すること。文献の種類は学术论文、ガイドライン、公的機関の資料等を問いません。

**テーマ例（自身で疑問を設定しても構いません）**

- ・テーマ例 1 高齢者のポリファーマシー（多剤併用）に対する減薬介入の効果
- ・テーマ例 2 プライマリ・ケアにおけるうつ病スクリーニングの有効性
- ・テーマ例 3 在宅医療における終末期の意思決定支援（ACP）の実践

※提示された文献情報が存在しないもの、あるいは、全くの別の内容の文献である（明らかに内容を見ていないと推察される）等と判明した場合、このレポート提出は「無効」となります。